

ミャンマー：副大臣人事における「罷免」と「辞職」

ミャンマーでは、12月下旬から年初にかけて一連の各省副大臣の人事が発令された。しかし、一部人事は官報に記載にされ、別の一部は国営紙「New Light of Myanmar」(ミャンマー語・英語)でも掲載される一方で、官報にさえ未だ記載されない人事もあるなど、発令の周知には一貫性がない。官報・国営紙と外交筋からの情報を総合すると、この一連の人事は表のとうりである。

各人事の背景

(1)のソー・ミン副林業相は官報でも「罷免(dismiss)」と表記されており、ミャンマーの人事発令では異例である。何らかの不祥事による事実上の更迭であっても、同国では外部社会への印象を配慮して通常「退任を許可する(Permit to retire)」という表現を使い「辞職」扱いにするのが慣例だからだ。外交筋によると、同准将は最近、あるミャンマー人女性に対する婦女暴行の罪に問われており、軍政首脳は他の政府高官に対する綱紀粛正の意味も含めてこうした異例の「罷免」を行なったものと推察される。

(2)のミョー・ティン副商業相の辞職は汚職疑惑が噂されている。昨年10月29日発令の閣僚人事で、チョー・タン前商業相(少将)が「辞職」したのも汚職疑惑が理由とされていることから、商業省における一連の汚職に連座しているものと思われる。

また、同じく「退任」したマウン・マウン副首相府相(准将)は昨年12月初旬にミャンマー投資委員会(MIC)、タウン委員長(p)の改組に伴い、同委員会書記という要職に任命されたばかりだったが、今回の副大臣退任に伴いMIC書記のポストを含むすべての公職も解任された。同准将も女性問題がその「辞職」の理由とされている。

また、(3)のティン・トゥン副第二工業相の消息だが、(本稿執筆時点で)官報でも記載がなく異例の措置である。ヤンゴンの外交筋が第二工業省関係者に確認したところでは同副大臣がすでに職務に就いていないことは間違いない。

(4)《新任》のミン・ティン副建設相、キン・マウン・チ

ョー副第二工業相の人事発令は国営紙でも発表された。特に注目されるのは、後者の国軍での階級が中佐であり、前職も国防省工兵局の一参謀にすぎないことである。国防省で現役の軍務に就いている中佐クラスの軍人が副大臣に登用されたことはほとんどない。背景に、建設省と工兵部隊との関連があることは当然考えられるとしても、特定の軍政首脳の「引き」があったことは充分予想される。

最近の人事の背景には、単なる高級軍人の順巡りによる「世代交替」ではなく、明らかに汚職や女性問題といった「不祥事」があり、長期におよぶ軍政で高官の間での綱紀がかなり乱れていることが見てとれる。特に師団や軍管区の司令官から昇格した正副閣僚等の高官にその傾向が強いようだ。ミャンマーでは、各軍管区の司令官は各地方の行政上のボスの存在であり、経済活動をも掌握している。汚職体質は司令官時代から身にしみ込んだものだといわざるを得ない。

1999年12月27日発令(官報に記載)

(1)《罷免》

■副林業相 Deputy Minister for Forestry
ソー・ミン准将 Brig-Gen Soe Myint

(2)《辞職》

■副商業相 Deputy Minister for Forestry
ミョー・ティン海軍准将 Commodore Myo Tint

■副首相府相 Deputy Minister, Office of the Prime Minister
マウン・マウン准将 Brig-Gen Maung Maung

官報に記載なし(発令日等は不明)

(3)《辞職》

■副第二工業相 Deputy Minister for Industry-2
ティン・トゥン U Thein Tun

2000年1月5日発令(官報に記載され、国営紙でも発表)

(4)《新任》

■副建設相 Deputy Minister for Construction
ミン・ティン准将 Brig-Gen Myint Thein
〔前職〕 東部軍管区副司令官

■副第二工業相 Deputy Minister for Industry-2

キン・マウン・チョー中佐 Lt-Col Khin Maung kyaw
〔前職〕 国防省工兵局第一級参謀

〔人物データ・ファイル〕

■ミャンマー投資委員会委員長 Chairman, Myanmar Investment Commission (MIC)
タウン
Thaung, U

同氏は「ウー(Mr)・タウン」との呼称からもシビリアンのようなものであるが、実際は佐官レベルの時点(旧・社会主義政権時代)で各省に「出向」した軍人のひとり。しかも「保守派」のリーダーと目されるマウン・エー SPDC 副議長(大将、国軍副司令官兼陸軍司令官)と新制・国軍士官学校第1期の同期生であることだ(マウン・エー副議長は貿易政策委員会委員長を兼任しており、タウンMIC委員長の就任には同副議長の影響力を指摘する向きもある)。

▼データ

【現職】 ミャンマー投資委員会委員長
(兼任) 科学・技術大臣

【年齢】 61歳(1938年生まれ)

【人種】 ビルマ族

【学歴】 国軍士官学校卒(学士)

【経歴】

1955: 国軍士官学校入学

1959: 同校卒業

少尉に任官

1970: 外務省に出向

1971: 少佐に昇任

1975: 中佐に昇任

連隊長

1979: ヘインダー錫鉱山採掘所長

1980: 第2鉱山公社部長

1981: 第2鉱山公社総裁

1983: 地質調査・鉱物探査局長

1986: 宝石公社総裁

1990: 副鉱山相を兼任

1991: 駐米大使(-96年8月)

1996: [10月] 科学技術相

1999: [12月] MIC 委員長

【横顔】

・ミャンマーには担当官庁の実務内容にあまり精通していない元軍人大臣が多いが、同氏は科学技術相としてかなり専門的なことも勉強しており、任務には意欲的に取り組む人物との評価がヤンゴンの外交団では出ている。

・英語が堪能で、駐米大使を務めたことがあるほか、外遊経験も豊富で日本には政府代表団の一員として科学相就任以前に2度訪問している。もともと学者肌の人であり、表面的には温和な人物というのが一般の評。

■ミャンマー投資委員会副委員長
ティン・トゥン少将
Maj Gen Tin Htu

軍政改組で SPDC が設立された1997年11月、電力省新設とともに初代電力相に就任している。入閣以前は東部軍管区司令官だった。

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)